

東予地区人権・同和教育研究協議会に向けて



みなさんは学校教材である『人間の輪』高等学校人権問題学習資料をご存知でしょうか？私たちが人権について学ぶのは、同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決するためです。そのためには、①差別を見抜く力、②差別を許さない感性、③差別をなくしていく行動力が必要である、と書かれています。人権・同和教育は子どもだけでなく、私たち保護者にとっても大切な教育です。PTA人権・同和教育部においても、毎年西条市で開催されている、「人権・同和教育講座」や「人権・同和教育リーダー養成講座」等に参加し、理解と認識を深め、学んだことをお互いに共有

し、意識を高められるように「きらり」の発行に努めています。小松高校では、今年度秋に東予地区人権・同和教育研究協議会が開催され、各学年テーマに応じたホームルーム活動がなされます。私たちも、子どもたちと一緒に学習を深めていきたいと思い、校内人権・同和教育講演会やフィールドワークに参加しようと決めました。そこで、今回は7月10日に行なわれた学年別講演会に参加して、私たち自身が学び感じたことを報告します。

1年生 人権紙芝居（養正会館2階）に参加して



道前育成園の職員の方による人権紙芝居「恵子さんのこと」は、毎年1年生を対象にして実施しているそうです。障がいのある「恵子さん」が成長していく中で、さまざまな問題に直面していきました。

私たちも事故に遭ったり、高齢になると障がいを持つようになります。障がいは誰しも身近なことです。障がい者が暮らしやすく、街に溶け込んだ生活ができるように、環境を行政や地域の繋がりで築きあげたいです。できない所をお互いに支援し、助け合える地域になれば、今からの子どもたちや私たち自身の豊かな生活に繋がると思います。

2年生 人権・同和教育講演会（武道場）に参加して

2年生の講演会のテーマは、「人権獲得の歴史から学ぶ」でした。人権・同和教育を学習する目的について、教育論「エミール」を引用されながら、「我々は、いわばこの世に二度生まれる。一度目は生きるために、二度目は、存在するために」、「我々は、いわば同和問題と二度出会う。一度目はそれを理解するために、二度目はそれを認識するために」と説明されました。当時起きていた社会的差別や、それを解決していかこうとする改善運動など、人権獲得への歴史を改めて学ぶことができました。基本的人権（人間が人間らしく生活するために、生まれた時から持っている権利）を尊重した社会づくりは、これからもひとりひとりの課題として大切なことだと思いました。



3年生 人権・同和教育講演会（体育館）に参加して

3年生は「幸せな結婚のために」をテーマにした結婚差別についてのお話でした。

講演の中で、西条市の市民意識調査の話がありました。その調査結果から、部落差別は今も残っていると感じました。また、「被差別部落の人との結婚に周囲が反対したら、あなたならどうしますか」という講師からの問い掛けに、「根気よく説明して、周囲の理解を得て結婚する」に多数の生徒の挙手がありました。生徒自身が自分たちの時代には差別のない誰もが幸せな結婚をするんだという強い思いを感じました。誰もが他人事ではなく自分のこととして取り組むことが大切であり、正しい人権意識を持つことが必要だと分かりました。この講演会をきっかけに子どもたちと同和問題について話したいと思いました。



「身元調査おことわり運動」のステッカー



西条市人権・同和教育講座に参加して



○市民意識調査の結果について



人権・同和教育に関しての西条市市民意識調査の結果をもとに、今の市民意識の現状と課題のお話を聞きました。講演会を通して、人権問題を解決していくには、心の奥底に隠れている本音を変えていくことが第一歩になると感じました。日常生活の中で、おかしいことにはおかしいと思い、言える人権感覚を身に付けることが大切だと思います。

○インターネットと人権

「子ども NOW ～インターネットに反映される現実世界の課題～」

国内のインターネット利用率は82.8%もあり、1億人以上が利用しています。もちろん、正しい知識・利用方法であれば、たくさんの情報を吸収して自身を成長させるツールの一つになります。ただし、社会問題にもなっているように、インターネットを使った差別や人権侵害も存在しており、自ら尊い命を消してしまっている子供たちも実在しています。

特に中・高生で問題になっているのが LINE によるトラブルです。すぐに「既読」にならない、返事が遅い、無視した等で、いじめに繋がっているケースもあります。

子どもたちには自己中心的でなく、相手の都合を考えたり思いやりを持った使い方ができるようになってもらいたいです。

○天まで届け！ひまわりの花 ～寄り添い、共に生きるために～

東日本大震災時の福島第一原発事故が発生したことにより、福島差別が生まれてしまいました。「福島の人」は被爆しているので関わりたくない等の差別が起きました。思い込みや偏見は正しい判断を狂わせてしまいます。



偏見や差別は人間がつくりだしたものだから、人間の手によって差別を解消することができるはずですが、誤った先入観や偏見を取り除くのは大変です。やがて差別は自然に無くなるだろうと思っても、永遠に解決しません。解決するためには、偏見を捨てて毅然とした態度で行動することが大切だと感じました。

人権標語・人権ポスター



- やめようよ 見ない知らない 人のせい
- 抜けだそう みているだけの 自分から
- 動きだそう 見て見ぬふりの 私から
- その一歩 あなたの勇気が 希望の光
- 見つけよう 一人一人のよいところ
- 踏み出して その一歩から いじめゼロ
- この世界 変えたい気持ちが ここにある
- 当たり前 自分との違い 受けいれよう
- 「だいじょうぶ」 その一言で 救われる
- 気をつけよう 相手にかける 言葉遣い



標語は今年度の生徒作品。ポスターは平成 26 年度の生徒作品

編集後記

顧問の先生のご指導のもと、役員と協力し合い何とか発行にたどり着きました。
次回は、東予地区人権・同和教育研究協議会の様子を掲載したいと思います。

